

2022年1月30日(日) 10時～ 講演会資料

主催： (一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催： 支援協会札幌市副支部 (株)アジアクラス

児童発達支援・放課後等デイサービス おとつむぎ

～小学校・中学校入学前に知っておく必要がある！～

『特別支援が必要な子どもの

進路と療育の話』

○通常の学級と支援級、支援学校で何が違うのか？

○今からどんな力をつけていくことが大切なのか？

○小学校・中学校入学までに身につけたい「学力」と「社会性」

○社会性が身につく集団療育と得意分野を伸ばす個別療育

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

恐るべし！特別支援教育の就職率

■特別支援学校中学部の進学率は、 . . .
岐阜県 98.4% (全国 98.3%)

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は . . .
岐阜県 〇〇.〇% (全国 〇〇.〇%)

恐るべし！特別支援教育の就職率

■特別支援学校中学部の進学率は、
岐阜県 98.4% (全国 98.3%)

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は

岐阜県 38.0% (全国 32.3%)

なんと3人に一人しか就職できていない！

これが現実！「保護者として」「学校として」
「行政として」「児童発達・放デイ」として、今
から何ができるのか？を早期から考えて、療育を
進めていくいく必要がある。

『天を望みて、地を歩む』

→18歳の出口を考えて今の療育を行う

なぜ、「今が大切」と今ばかり見るのか？

→毎年変わる担任、責任がもてない？

《まず18歳以降の三つの生き方を考える》

1 手帳を使って「障害者」として生きていく

2 手帳をもたずに「健常者」として生きていく

3 1と2の合わせ技、手帳と学歴をもつ生き方

それでは、中三以降どのような道に進むか

「特別支援学校高等部」進学か？

それとも「高等学校進学」か？

×現在中3卒業後社会に出る子は100人に一人？

1 特別支援学校高等部進学の場合

○通常の支援学校高等部に進学

○高等特別支援学校高等部進学 (学力必要)

2 高等学校進学の場合

○通常の公立・私立の高等学校 (内申点必要)

○特別な高等学校（支援学級から進学可能）

（例）通信制サポート高校や専修学校

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)

2 何が違うのか (2) 支援体制

3 何が違うのか (3) 進路

4 身につけなくてはいけない力

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、生活単元中心
学習よりも、「自立して生きていく力」を身につけていくことが最優先！！

☆小1では、ほとんど学習を行わず身辺自立最優先！！

☆小3から「ひらがな練習」ということもある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的学級）は、

生活単元＋教科の授業

基本的に支援学校と同じ！

しかし、その子に合った学習も進めていく。

通常級の交流もその子に合わせてある。

☆「ひらがな」は小1から指導する。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（情緒学級）は、教科の授業＋自立活動（生単無し）基本的に学年の教科学習を行い、SSTなどの自立活動を行う。→その子によるが、**通常との交流も多く、通常学級に戻るケースも多い。**

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通級指導教室は、

「言葉」と「情緒」の2種類が多いが
(情緒が『ADHD』や『LD』のよ
うに詳細に分かれている所もある)

通常級に籍を置き、週に1～数時間抜き出しで個別の指導を受ける。

※自校通級と他校通級の場合がある

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常学級は、教科の授業中心

原則、担任一人で、30人の子どもたちを担任。

合理的配慮を行わなくてはならないが、現実には難しい。

※通常級に6.5%の発達障がいの子ども

どのような基準で分けるのか？

判定は、市町村教育委員会

就学指導委員会・教育支援委員会等の名前

(教育委員会担当職員＋校長会代表＋専門医＋支援学校教員＋発達支援センター＋教育長等)＋保護者の願い等書かれた書類

①身辺自立ができているか。

②知的な遅れがあるか。

③情緒面の問題がないか。

※原則定例・・・臨時も有

変更する場合は、

まず、校内の支援委員会で決定

(校長＋教頭＋主幹教諭＋教務＋学年主任＋コーディネーター
＋養護教諭＋支援学級担任＋通級の先生)

校内委員会で変更の必要があるとされると

まず、保護者に連絡

保護者の理解が得られると
教育委員会に書類が行く。

→校内委員会の通り進む

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 **何が違うのか (2) 支援体制**
- 3 何が違うのか (3) 進路
- 4 身につけなくてはいけない力

支援学校→担任が2人

支援学級→担任が1人
+ 支援員（県・市町村）

通常学級→担任が1人
+ 支援員（県・市町村）

☆小3からは基本担任1人

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 何が違うのか (2) 支援体制
- 3 何が違うのか (3) 進路
- 4 身につけなくてはいけない力

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、高等部まで支援学校

通常の学校（支援学級）への変更は、事例としてほとんど無い。

→よほどのことがないかぎり通常の学校が受け入れない。

→手帳を使って、障がい者枠でよりよい就職先をめざす。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的）は、最終的に支援学校高等部→就職が多い

《理由》

知的な遅れがあるため、高等学校の学習についていけず、卒業することができないと判断される。高等学校は、留年がある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（情緒）は、手帳がないと高等学校進学をめざさなくてはならない。（支援学校定員一杯）

《理由》

平成10年から支援学校在籍者は2倍に増え、日本全国で2300以上の支援学校クラスが不足状態

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常学級や通級は、原則高等学校進学をめざさなくてはならない。

（通級は通常級にもどす努力）

《理由》

現在は、単位制や通信制など様々な高等学校ができています。

→将来をみすえた支援が必要！！

不登校や特別支援学級から進学できる 『特別な高校』

①公立の定時制高校や単位制高校

②特別支援が必要な生徒を受け入れてくれる私立

③通信制高校（サポート高校）

④専修学校（通信制＋専門学校）

（例）北海道芸術高等学校などがある。

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 何が違うのか (2) 支援体制
- 3 何が違うのか (3) 進路
- 4 身につけなくてはいけない力

必要な学力は、中3の出口によって変わる

※今から目標を決めて取り組む必要がある

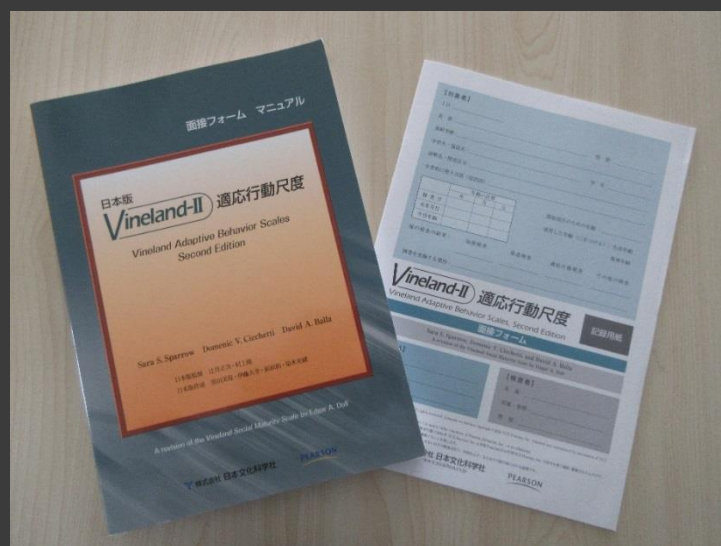
- ①通常の特別支援学校→学力は関係なし
- ②高等特別支援学校 →小4～5年程度
- ③通信制サポート高校→小6年～中1程度
- ④専修学校 →中1程度
- ⑤特別支援を受け入れる公立・私立高校 →中1～中2程度
- ⑥通常の公立・私立校→中2～中3程度

(注) 通常の高校の場合は学力がないと
“留年” になってしまふことが多い！

【一人で生きていくための力(適応能力・社会性)】

ヴァインランドとS-M社会生活能力検査の活用

【厚労省の放課後等デイサービスのガイドラインにも示されている療育の内容】



「ヴァインランドⅡ」 「S-M社会生活能力検査」
※なんと99%の放課後等デイで利用されていない！

まずは、何を身につけることが重要なのか
※0歳～15歳までに身につけたい社会性
～S-M社会生活能力検査から～

- 1 身辺自立
- 2 移動
- 3 作業
- 4 意志交換
- 5 集団参加
- 6 自己統制



就職するために必要なことは……

大山会長（日本理化学工業）
の採用条件



- **身辺自立**
- **自分で会社に通う**
- **「やろう」と言われたら
すすんでやる**
- **仲間にいじわるをしない**
- **気持ちのよいあいさつ**

就労の違い(山内の指導経験から)

- 養護施設とは、 . . .
 - 作業所、とは、 (7歳の壁)
 - B型事業所とは、 (9歳の壁)
 - A型事業所とは、 (12歳の壁)
 - 一般就労とは、 (15歳の壁)
- 法律も変更 . . . 障害者枠は、精神手帳も可。しかし、現実には . . .
- ☆短大・大卒が条件になる場合も

学校と園・学校と療育施設の協力が重要

“外でできて本物の力” となる

※「家庭内だけでできていてもダメ」

「園や学校でできていてもダメ」

(特別支援学校高等部を卒業しても就労ができる生徒は、わずか3人に1人！)

→気のあった先生や同じ仲間だからできるだけ

※就職するということは色々な人とまざって活動！

◎保護者や先生以外の大人の指示でも従える力

◎色々な仲間とまざっても作業ができる力

→だから今「児童発達支援」と「放課後等デイサービス」が注目されている

少人数と集団の両方の療育が重要

“少人数の療育”の有効性

※まずは、一人一人に合った内容を療育する

※コミュニケーションも順に身につく

- ・ 一般的に通常学級は子ども30人に1人の先生
- ・ 特別支援学級でも子ども8人に1人の先生！？
- ・ 特別支援学校では子ども6人に2人の先生！？

◎児童発達支援や放課後等デイサービスは

子ども10人に対して指導員4人～5人もいる

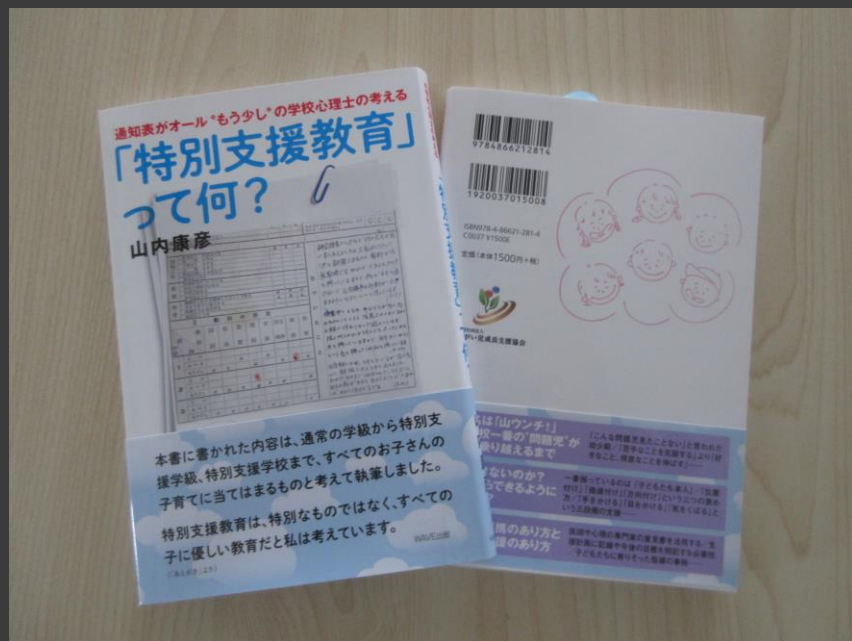
▲通常の学童保育は50人の子どもに先生3人？

“集団の療育”の有効性

※まずは、少人数から（いきなり大人数は無理）

「ペア」→「トリオ」→「カルテット」

困り感を共感的に受け止め、早期から適切な支援を継続的に行うことが大切です



**特別な支援は、もはや特別なものではありません
全ての子どもたちにとってやさしい支援なのです**

ご清聴ありがとうございました。